

排水路の対応状況について

- B C排水路のモニタリング状況
- A排水路の切替工事開始

2016年10月27日

東京電力ホールディングス株式会社

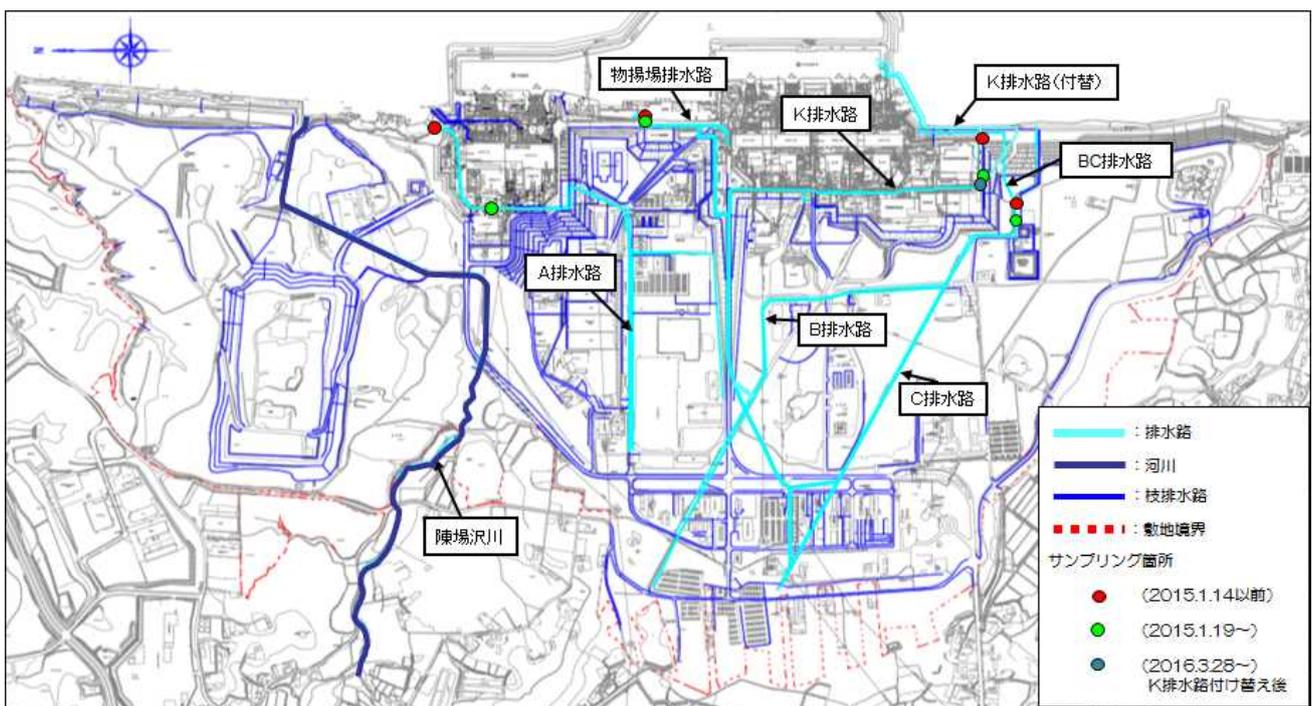
TEPCO

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

1. 排水路の位置

1

- 排水路、河川、枝排水路の位置を下図に示す。

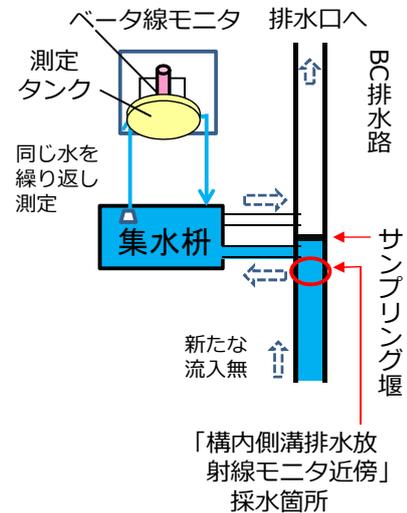
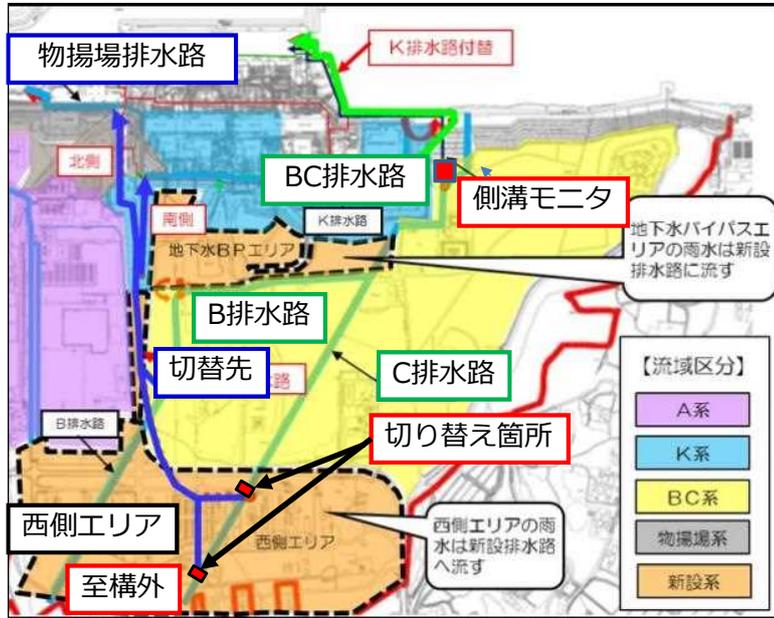


TEPCO

2. BC排水路のモニタリング状況

2

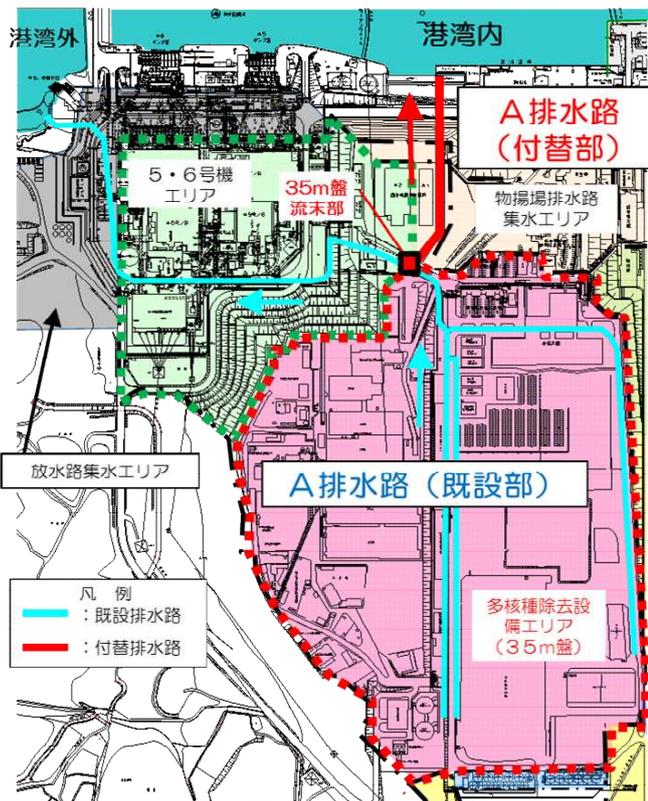
- 物揚場排水路については、構内排水路全体の排水能力向上・排水路の負荷分散を目的として改修工事を実施し、9月上旬に西側エリアより上流の水を物揚場排水路への切り替えを実施。
- 切り替え以降、BC排水路は、降雨がないと排水路内の水の流れがなく、排水路内に降雨時の雨水が滞留している状況。そのため、定例サンプリングはこの滞留した水を採水し、分析していたため至近の分析結果が約200~400Bq/Lで推移していたと考えられる。
- 側溝放射線モニタも、滞留した同じ水を繰り返し測定している状態であり、BC排水路の監視機能が適切に行われるよう、西側エリアの排水の一部をC排水路へ常時導水して一定流量を確保した。これにより滞留状況が解消され、モニタ環境を更新するように改善した（10月11日より通水再開）。



<側溝放射線モニタ状況>

3. A排水路の付替工事開始

3



- A排水路は5・6号機エリア（13m盤）と多核種除去設備エリア（35m盤）から構成される。
- 5・6号機エリアには5・6号建屋南西側周辺および西側法面と開閉所周辺が含まれ、集水エリア内の排水濃度は低く、汚染水を扱う設備は無いことから汚染水の漏洩リスクは低い。
- 多核種除去設備エリアには、集水エリアに増設ALPS、高性能ALPS、ALPSタンクおよび移送配管等が設置されていることから汚染水漏洩リスクを考慮し、35m盤の流末部から港湾内への付替えを行う。
- 2016年11月から工事開始予定。延長約240m、通水予定は2018年3月。

